Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-08-08

開催趣旨

神戸大学大学院人文学研究科
神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター

(Citation)
歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集,17:1-2

(Issue Date)
2019-01-30

(Resource Type)
conference object

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012124

開　催　趣　旨

このたびは、ご多忙のなか第17回歴史文化をめぐる地域連携協議会にご参加いただき誠にありがとうございます。

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターでは、2002年のセンター開設以来、地域歴史遺産をめぐる諸課題について、地域のみなさまとともに議論をしてまいりました。とりわけ「活用」は、その中心的なテーマのひとつです。振り返ってみますと、第１回協議会以来、活用については協議会における議論の中心的課題となっており、地域歴史遺産を守り、伝えていくためには、いかにしてそれらを活用していくかということが大きな課題となっていました。

こうした過去、何度も議論を重ねてきた「活用」について、今ふたたびテーマとして設定する理由は２つあります。ひとつは、十数年間の議論の到達点を、今一度みなさんとともに確認しておきたいからです。この間の議論では、住民と自治体、大学とがそれぞれ平等な立場で地域歴史遺産に関わりながら、三者が協同して保全・活用をはかっていくことが大切であること、また、互いの特性を活かしながら学び合い、連携して活動することで、地域歴史遺産をよりより形で後世へ伝えることができることを確認し、実践を重ねてまいりました。

もうひとつは、こうした到達点を踏まえて、いまこそ地域歴史遺産の活用を正面から議論する必要があるという点です。この間の協議会では地域歴史遺産の活用をめぐって、ふたつの方向性が議論されてきました。ひとつは、多くの人びとが何らかの形で地域歴史遺産に関わることが、地域の歴史文化と人びととの距離を縮める役割を持っているということです。日常生活のなかで、ともすれば離れがちになる人びとの生活意識と地域の歴史文化を繋ぎとめることが、地域歴史遺産の活用法として求められています。ふたつめは、地域歴史遺産の活用を行うことで、地域史研究やまちづくりなどに活かしていく方向性です。ただ、後者の活用についてはある種の難しさがあり、ともすれば対象に向き合うことなく、経済的利益のみを追求するような方向での活用も見受けられます。こうした状況において、地域社会のなかで地域歴史遺産をよりよく「活用」する方法とは何かについて、今一度、みなさんとともに議論をし、課題を共有しておきたいと考えています。

以上をふまえ今年度の協議会では、「地域歴史遺産の〈活用〉を問い直す―地域資料館の可能性―」をテーマとして、地域歴史遺産の活用をめぐって、尼崎市の事例を基に協議していきたいと思います。尼崎市ではこの間、尼崎市立地域研究

史料館をひとつの拠点とし、住民と自治体、大学とが関わり合いながら、様々な取り組みが展開されてきました。尼崎市の取り組みからは、単に尼崎の事例にはとどまらない、兵庫県全体や日本社会における歴史文化と地域社会との関係性や、そのもとでの地域歴史遺産の「活用」をめぐるあり方について、全体を見据えた議論を見通すことが可能であると考えています。

私たちはこの協議会自体が、多くの参加者の間でつながりが生み出される場となることを願っています。そのため協議会の合間にできる限り時間をとり、各団体の方々が交流できるコーナーやポスターセッションの場を設けたいと考えています。多くの方々に活動の成果物や書籍をお持ちよりいただき、展示・交流していただければ幸いです。

2019（平成 31）年 2 月 3 日

神戸大学大学院人文学研究科
神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター